

# 東総工 PTA 会報

PTA広報委員会  
事務局  
旭市鎌数川西5146  
TEL 0479 (62) 2522  
FAX 0479 (62) 4425  
平成25年11月16日発行



## とうとう

PTA会長  
高橋 豊

教室の窓から外の校庭を見てみると、在学当時の光景がよみがえってきた。みなさんは、校舎南側窓枠の内側上部の溝がギザギザに削られてしまっているのにお気付きだろうか？教室だった部屋にはすべて残されていると思う。これは、生徒のイタズラではなく理由があるのだ。まだペットボトル飲料が普及しておらずビン飲料が主流だった頃、技術習得に燃えていた東総生が生み出した裏技「栓抜き」なのだ！自販機が校内に無かった頃は、購買で「スカット」を買い教室で飲んでた。栓を抜かないで買ってくるから、飲む時には当然栓抜きが必要となる。今にして思えば本当によく考えたと感じる。この発想力こそ、工業界に多数の逸材を送り出している東総の力なのだ。今は豊富すぎるほど、飽和状

態になるほど「モノ」が氾濫している。要求したものと違って簡単に手に入る時代になってしまった。オートメーション化の今、より安価で大量生産される時、私たちに「モノ」が合わせるのではなく「モノ」に私たちが合わせる生活になりつつあります。技術開発は日々進化しています。基礎は工業、工業無くして社会は成り立たないと思っています。諸先輩を超え世界に通用する優秀な技術者が、さらに輩出されることを願っています。

また時折、所用で学校を訪問した時に、生徒達から挨拶されることが多々あります。立ち止まって挨拶してくれる方もいますし、知らん顔する方もいるのも事実です。山田校長先生が唱えた「東総工A+6S運動7カ条」を御存知でしょうか？高校



生として、社会人として、人間として最低限必要な事が書かれています。私達も、その全てが出来ているわけではありあませんよ。だから今からでも自分から、私達から、そしてPTAから東総を変えていこうではありませんか。

今年度の文化祭はとても盛況に終わり、バザーの出品・駐車場係・販売など、準備の段階からPTAの皆様のご協力、大変



ありがとうございます。

最後になりましたが、千葉県立東総工業高等学校創立五十周年おめでとうございます。海気かをる当地干潟八万石に、その勇姿を見せて半世紀。PTAとして、卒業生として、この節目に携われる事、感無量であります。わが東総のためならば尽力を惜しまない所存でありますので、本年度で会長二年目となりますがよろしくお願い致します。



同窓会会長  
加瀬 義夫

本年創立五十周年を迎え十一月に記念式典を行うこととなりました。PTAの皆様には式典開催に



校長  
山田 勝彦

## 創立五十周年 への思い

PTAの皆様には日ごろから本校の教育活動に御理解と御協力を賜り誠にありがとうございます。去る十一月二日の「東総祭」ではバザーや出店をはじめ来校者の駐車場の誘導にも御協力いただきました。また、創立五十周年記念事業にも絶大な御支援を賜りました。重ねてお礼申し上げます。

本校は東総地域唯一の工業高校として昭和三十八年（一九六

多大な御協力を頂き厚く御礼申し上げます。

創立以来科名の変更はありませんでしたが、統廃合もなく母校が発展して来た事は、PTAを始め地域の皆様に支えられて来たからだと思えます。

物造りと、人造りを校風に歩んだ学校も一万数千人の卒業生を社会に送り出し地域社会発展の一翼を支えているものと感じます。これまで築いてきた学校の歴史・校風を基にこれから始まる新たな歴史造りに生徒・教師・PTA・同窓会等が協力して『千葉県立東総工業高等学校ここに有り』と発展することを念じてやみません。



三)に産声を上げ、日本の高度成長期とともに半世紀にわたり千葉県と日本の発展のために工業人材の育成に取り組んで参りました。卒業生の数は約一万二千名、その活動の場は県内はもとより全国から遠く海外へと広がり、まさにグローバル人材として活躍しています。

創立五十周年の節目にあたり東総工業のイメージアップを図るため四つのことを実施しました。

第一は新入生の制服を一新しました。特に男子制服をブレザー型にして色を男女とも紺系で統一しました。新しい東総工業生のスタイルとして定着することを願います。

第二は「校訓」を制定しました。「誇り・技術・使命」です。校歌の一番二番三番から一語ずつ取りました。

【誇り】東総工業に帰属することとに誇りを持つこと。人として技術者としてプライドを持つて生きることです。

【技術】各専門分野の工業技術を修得し、自らの技術・技能を磨き究め、工業の発展に寄与することです。

【使命】工業技術を通じて人々の幸福と平和のために働く崇高な志と社会貢献する強い使命感を持つことです。校訓は創立の趣旨を永く伝えるため石に刻み記念碑として玄関右に建てました。

第三は玄関の上方に「東総工業高等学校」のロゴを設置しました。外から学校名が一目でわかる本校の看板です。

第四は校旗を新調しました。同窓会から寄付いただきました。創立以来の初代校旗はその役目を終え、新しい校旗に引き継がれます。

創立五十周年は新たな半世紀への第一歩を踏み出す記念すべき年です。これからも本校生徒が校訓を胸に学校生活を充実させ、志を立てて何事にも積極的に挑戦して人のため社会のために貢献できる人間として大きく成長することを心から願います。PTAの皆様にはこれからも引き続き本校の教育活動に御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 第六十三回全国高等学校PTA連合会大会 山口大会

PTA副会長 木村文雄

「校長ブログ」<http://yamahiko.blogzine.jp/>

今年度、山口県で八月二十一日(水)、二十二日(木)に開催された全国高P連大会に、校長先生と高橋会長と私の三人で参加させていただきました。「夢から志へ」たくましく生きるチカラを育むために、今、私たちができること」というテーマのもと、主会場を山口県スポーツ文化センター(アリーナ、レクチャールーム)として、その他に五会場という多くの会場を使いテレビ中継を通して各会場とつながるといふ大がかりな全国大会でした。参加人数は全国から約一万人が集まったそうです。メインテーマである「夢から志へ」と言う言葉には高校時代、子供のころから持ち続けた夢を実現するために、自ら志を立て、そして育み磨く期間であってほしいという思いがあり、志とは人生において、己のためだけでなく多くの人々のためにそして、世の中のために、大切な何かを成し遂げようとする決意だそうです。当日は、PTA

連合会会長の相川順子さんのあいさつからはじまり、大勢の方々の祝辞のあと基調講演では、安部総理大臣のビデオ上映による教育再生についてのお話、文部科学大臣の下村先生からの日本のお話がありました。昼のアウトラクションとして地元の歌手の原田侑子さんの生ライブがありました。記念講演は藻谷浩介による「地域の未来をつくるために、子どもたちをどう育てるのか」というテーマでした。分科会では「青少年の健全育成に係わる研究発表」やる気のない子とある子の違い、WYSHウィッシュの視点からというテーマで本原雅子先生の発表でした。大会期間中暑い中おそろいの志のポロシャツを着てがんばっていた大会関係保護者の方々ご苦労さまでした。みんなが志を持って大会を成功させようとする思いが伝わりました。貴重な機会を与えていただき感謝申し上げます。

るとともに、社会情勢や高校生の特徴などを分析してみたい。この文章が保護者の皆さんと子弟の進路選択の参考になれば幸いである。

### 一 進路希望状況

( ) 内は女子

一〇月中旬の三年生の進路状況は左記のとおりである。

①就職希望一三三(一一)

学校紹介一一九(一一)

公務員六(一)

自営・縁故八(〇)

②進学希望五四(五)

大学・短大二〇(二)

専門学校二八(三)

職業訓練校六(〇)

③家事・その他〇

就職も進学も自宅から通える範囲の希望が多い。

今年も、就職希望者が多く、全体の七割である。

工業高校ということもあり、女子に希望の多い事務や販売の求人はきわめて少ない。

### 二 求人および

#### 就職内定状況

昨年の求人倍率は実質五・四倍程度であった。今年度は、昨年より増え五・八倍程度である。

ただ、求人数からは十分な数であるが、実際の採用試験は苦戦し、一回目の試験では約三割の生徒が内定を得られなかつ

### 進路指導部より

#### 本年度三年生の

#### 進路状況等

#### 進路指導主事 戸石素人

今年の三年生の進路状況をみ

た。

近年の試験の傾向は、求人のある企業に各校から応募者が殺到し、一握りの優秀な生徒しか内定が得られなくなっている。また、企業の採用基準も高く、募集人員を満たしていなくとも募集を終了したり、二次募集を実施したりする企業もみられた。

このような状況なので、内定を得られなかった生徒の中には進学に進路変更した者もあり、あくまで就職希望の生徒については、二回目の受験先を苦労して探している。

来年度以降も、さらに厳しい就職戦線が予想される。

次に現在までの主な内定先企業を挙げる。ちなみに、全社ほぼ正社員としての採用である。

- 東日本コベルコ建機
- 日本フィールド・エンジニアリング
- ダイニッセイ
- やすらぎ園
- 遠藤建設
- 日鉄住金プラント
- 住友林業ホームエンジニアリング
- 東京ガスパイプライン
- 阿部建設
- 朋和産業
- フジクラ 佐倉事業所
- 東京電力
- 成田空港警備
- 大和鋼帯
- ヤマサ醤油
- N T T M E

- パラマウントベッド
- トーア・アイアール
- 三井造船 千葉事業所
- 住友重機械工業
- 日華化学
- デンカポリマー
- 山九
- J F E 電制
- 三水鐵工
- リンテック
- 新日鐵住金
- 三菱電機ビルテクノ
- 空港協力事業
- 東日本旅客鉄道
- 安藤建設
- アルケア
- 花王 鹿島工場
- 村岡ゴム工業
- 桐井電設工業
- ハピネス
- 三鈴エリー
- 日立ビルシステム
- 日鉄住金テクノロジ
- サンヨーエアサービス
- 米屋
- 美和電気
- アサヒ
- ネグロス電工
- タカラスタンダード
- 山武群市農業協同組合
- 市原組
- 東洋合成工業
- 日本クライス
- 多古町農業協同組合
- 銚子漁業協同組合
- ヤマト運輸

- 真栄測量
- 青木油脂工業
- ナリコー
- 宝醤油
- 川久保企画
- 吉岡建設
- 日本ロジテック協同組合
- スプレーイングシステムス
- 大塚製靴
- 菅原工芸硝子
- サカイ引越センター
- マルエイ
- 永井工業
- A G C エンジニアリング
- 古谷乳業
- ちば醤油
- 木村プログレス工業
- エヌ・デー・シー
- 横山香料
- かとり農業協同組合
- アーネストウイング
- 日清紡ケミカル
- 出光ユニテック
- 高圧化工
- タガワ
- アドレスサービス
- 千葉測器

### 三 進学について

学校選びであり、一学期から夏休みにかけてのオープンキャンパス等に必ず参加し、授業内容・施設設備・就職先などを十分吟味する事が大切である。次に注意する点としては、大

① ③については面接試験で②

### 四 企業の求める新卒者像

採用する側の期待する高校新卒者像を見ると、学校現場の職員が期待している資質と一致していることが多い。①基本的な生活習慣・マナー②読み書き計算などの基本的な学力③コミュニケーション能力等である。

②の対策としては、普段の授業をまじめに受けると同時に一般常識問題集に熱心に取り組む必要がある。基礎的な問題が大部分だが、範囲が広いので早めに準備する必要がある。

③については面接試験で②

### 五 高校生の状況

高校生を取り巻く問題として、早期離職問題(本校の大部分の生徒は、就職すればすぐ離職せず長く活躍している)、正社員にならないでフリーターとして生活する際の、個人および社会の問題(生涯賃金・年金等で二億円以上の差がある)、定職に就かないばかりか何の教育訓練にも関わらない「ニート」と呼ばれる問題がある(専門性・即戦力が求められる社会で正社員として採用される可能性が乏しくなる)。

学校では様々な機会を捉えて、自身の適性を考えさせたり、職業意識を高める働きかけをしているが、家庭でも働く意義、様々な職業生活・体験、人生観などを話題にして将来展望、将来設計を描く機会を持っていただきたい。

# 一学年の近況

学年主任 越川恭伸

入学して早くも七ヶ月が過ぎ学校生活にもだいぶ慣れてきました。先日行われましたスポーツ大会では、夢中になってボールを追いかけて、我を忘れて仲間を応援している光景も見られました。友人関係も中学時代とは比べものにならないくらい幅が広がっていると思います。しかし、充実した高校生活とは違いいなかには学校生活や校則に適應できない生徒がおります。ここでもう一度初心に帰り、入学時にお願したことについて考えてみてください。

- ①「基本的な生活習慣の確立」
- ②「学習意欲の向上と資格取得への取り組み」
- ③「自他の人格の尊重と責任感の高揚」

これまでを振り返り、お子様の挨拶や出欠状況、服装・頭髪はどうでしょうか。挨拶は人との出会いの始まりでもあります。明るく大きな声で挨拶することは、自ら生活態度を変ええることにつながります。また、人間社会の基礎となるコミュニケーションは、個々の成長にとっても集団や組織の形成にとっても必要不可欠であります。相手を理解し、敬い、共に生きる力を養うことは、社会で貢献できる人

間に成長することでもあります。進路実現のためには、学校を休まず、授業へ積極的に参加して学習習慣を身につけることが重要です。漢字や英単語テストなどの小テストも怠らず、基礎学力を向上させ、各種の資格取得にも積極的に取り組んでいただきたい。これから年度末にかけて資格取得のシーズンとなります。今から進路を見据えて一つでも多くの資格を取得してください。目的・目標を明確にすることは充実した学校生活を過ごすことにつながります。将来のことを考えれば決して時間にも余裕はありません。これからの学校と家庭が連携・協力することで、それぞれの夢が実現していくことと考えます。今後とも保護者の皆様の御協力をお願い申し上げます。

# 二年生の近況

学年主任 宮 進

## 今後の学校生活について

二年生になり課外活動でも中心的存在になってきております。体育系・文化系部活動、各工業科での特色ある取り組みにおいても五十回生の活躍を多く耳にし、心強く思います。

一学期は職場見学や進路講話。二学期に入り高校生活最大の行事、修学旅行がありました。天候に恵まれ、無事計画通り実施

することができました。旅行中、所どころで見られた生徒の眩しい笑顔がとても印象に残っています。

生活全般を見ますと、よく言われる中だるみの傾向も否めない状況ですが、概ねほぼ全ての生徒が学校生活を楽しく過ごしております。ごく一部ですが校則違反等で繰り返し話す機会が多い生徒がいます。「ダメなものはダメ」、「あたり前のことがあたり前にできる」このことがブレたとき、進級もさることながら厳しい進路戦線を勝ち抜くことはできません。五十回生全員、一人の行いが全員に影響があることを認識し、周りから見られている自分を強く意識してもらいたいと思います。

社会生活の基本はなんといいても人間関係が最も大切です。一年半後に生徒が飛び込む実社会は、責任をもった言動と行動が求められる厳しい社会です。卒業後、高校生活とのギャップの激しさに戸惑い、苦慮する人が多くいます。そのような中、これからも特に心がけてもらいたいことは、「人を思いやる心」を常にもつことです。その心の持ちようで日ごろから充分なコミュニケーションをとり、理性を磨くことで気持ち(心)が豊かになり、短絡的な心の抑制もできるようになります。そこか

らマナーや規範意識の感覚も自分のものとして定着されていきます。また、入社後は学校と違い縦社会に組みこまれます。そのような中、社会で活躍するためには、謙虚さを忘れず、自分の言わんとすることをはっきり主張し、相手に自分の考えを明確に伝えることが大切となります。毎年難関を突破し、夢を実現した生徒に共通していることを挙げます。

- 一 基礎学力がある。(評定平均・漢字・英単語・基礎力問題集等をしつかりやっている)
- 二 日ごろからメリハリのある行動ができています。(日ごろからの挨拶も重要)
- 三 体力が人並み以上といえる自信がある。(遅刻欠席も尺度となる)
- 四 専門性が高く、資格を多く取得している。(国家資格があると特に有効)
- 五 自分自身を良く理解し、選考試験に自分をどう売り込むか、戦略をもって臨んでいる。

五は今後、特に意識して生活してもらいたいことです。このことは前記の社会生活の基本の中にある内容を日ごろから心がけて行動できれば、進路先選考試験の時に必ず力となります。東総工から踏み出す第一歩が

人生において大変重要です。まだ「本気のスイッチが入っていない人はいつ入れるんですか!!」。我々学年職員も生徒一人ひとりの進路を基軸とした自己実現の支援が、最大の目標と捉えております。

五十回生の皆さんには残り的高校生活を真剣に考え、目標・自己実現に向けて努力することに伴う辛さと面白さをあじわい、自分をさらに大きくしていく楽しみも感じながら、力強く一歩前進していくことを期待しています。

最後に保護者の皆様におかれましては、お子様が社会にできる仕上げ段階にさしかかっております。(これからの一年が三年間の中で最も重要です)良いところは積極的に褒め、さらに将来について具体的に語りあい、お子様のよき道しるべとして御協力いただければと存じます。学年の様子等は、「学年だより」で今後とも情報を発信していきます。

# 三年生の近況

学年主任 白井啓介

長いと思われた三年間も、残すところあともう少しですが、このもう少しと思った時に気持ち緩んだり、又は魔が差したりして、失敗してしまうということがあります。心配をしたら

キリがありませんが、一番注意しなければならぬのが交通事故です。その怖さをここで書かなくとも皆様よくお知りの通りでございます。御子息の「みんなやってるよ」に誤魔化されることなく、卒業までは学校のルールを守る様、御指導お願いいたします。

さて、今年の進路の状況ですが、就職関係は今年から高校生の求人をするという企業が十数社あり、全体としても五百十八社と例年より増えています。内定者は九十人で就職希望者の七十一パーセントです。(十月十八日現在)合格を貰えていない生徒もいますが、一日も早く希望が叶えられるよう祈っています。次に進学者ですが、比較的順調に合格を貰っています。最後に「あともう少し」を生徒達が高校生として充実した生活を送り、彼らなりに締めくくりに、次の進路の準備が出来る様学年職員一同願っております。

### 平成二五年度 上半期を振り返って

#### 電子機械科 園 田 稔

新年度から半年が過ぎました。日頃の学校生活においては、授業や実習・学校行事に一生懸命取り組み、さらには、資格取得や部活動と学業の両立に努力し

ている姿を多く見る事ができました。特に資格取得では、昨年度から努力をしてきた国家技能検定三級機械検査作業に二五名が合格することができました。さらに暑い夏休みに、汗を流しながら練習に励んだ同検定三級普通旋盤作業において受検をした十六名の全員が合格を果たし、それぞれが技能士として承認されました。その他の国家資格や検定試験にも多くの生徒が積極的に取り組み成果を上げていると報告出来る機会がとでも多かったと感じています。また、夏休みを利用して、機械実習工場の床をライトグリーンに塗装をし、これまでの暗い工場から、明るい工場へと大きく変わりました。

十一月二日に一般公開した文化祭においては、各クラスが出し物を企画し、M3の焼きそばの調理販売、M2は駄菓子屋さん、M1は空き缶クラフトによる鶴の製作をそれぞれ行いました。授業では、なかなか見られない笑顔がたくさんありました。今年も多くの部活動が活躍し、特にバレーボール部が二年連続関東大会へ出場し、機械情報部がロボット相撲全国大会の出場を決めるなど、大きな成果を果たした。その中心選手として電子機械科の生徒が多く活躍しました。学業と部活動の両立は非

常に大変だったと思いますが、その継続する力の証だと思っております。

このような取り組みが、生徒一人一人の力になり、三年生の進路決定するとき大きな力となるのです。これからも、何事においても一生懸命に取り組み努力する姿勢を持ち続けさらに頑張ることを期待するとともに、歩みを合わせ職員も努力したいと考えています。

### 電気科の 取り組み

#### 電気科 岡澤 公明

四月にそれぞれの学年が進級し一年生を迎え六クラスで新学期がスタートして半年が過ぎました。この半年間を振り返ってみると、三年生は進路(就職試験・大学専門学校進学など)で三年間の総決算に追われていたと思われ、年々企業からの求人数が減少傾向にある中電気科の生徒諸君は、なかなか健闘しているのではないかと思います。科をあげての学科指導及び面接指導また担任の先生方のご努力に感謝いたします。今年の

一学年より進路指導要領の導入により、電気基礎を一単位増加させ四単位から五単位に変更いたしました。単位増加によりわかりやすい授業の理解度が一層

進むと思われ、二学年には、国家資格取得(第二種電気工事士筆記試験)の受験時期の二期への移行など合格者数を増やすため科全体で考え取り組んで参りました。良い結果が出ると思っております。一学年は、今までの中学生生活とは違い自分身の自主性で、これからの高校生活を創造して行かなくてはなりません。高校三年間は長い様であつという間に三年生になり自分の進路を決定しなければな

らない時期が来てしまっています。電気科職員全員でバックアップしていきたいと思っております。ふと思うのですが、角田光代の小説で八日目の蝉がありますが、蝉は地上に出てから八日目ぐらいで死んでしまう定説がありますが、一ヶ月ぐらいは生きていくという観察結果があります。いつも電気科に居ると七月の半ばになると七日目のキリギリスという言葉が頭に浮かんできます。どうしてなのでしょう。

### 平成二五年度上半期の情報技術科の様子

#### 情報技術科 大木 正臣

今年度も半年が過ぎ、一年生も既に学校生活にも慣れ、二年生は大イベントの修学旅行が終わり、三年生は高校生活もあと数ヶ月になりました。ここで、上半期を振り返って見ることにします。

**四月「入学式」** 新入生四〇名(男子二八名、女子一二名)が、元気よく入学しました。今年度は、例年になく女子が多く、全学年で一番多いクラスになりました。

**五月「校外学習」**  
一年生…(遠足) 東京デイズニールランド  
二年生…(進路学習) 東京ガス(株)袖ヶ浦工場・アクアライン 海ほたる見学  
三年生…(職場見学) (株)住重ブラテック

「情報技術科紹介DVD製作」今まで広報活動で使っていた紹介用DVDが、古くなってきたので新しく製作しようと考え、そこで知り合いの国際理工情報デザイン専門学校の先生に相談したところ、それなら専門学校生の勉強にもなると言うことで、撮影を快く引き受けていただきました。四回の撮影を行い、実習・課題研究・教室での授業等を撮影し、無事に学校説明会までに間に合い、上映することができました。

七月「インターシップ」毎年

二年生を中心に実施しております。今年から、全員を参加させようと考え、部活動や体調不良等で欠席した生徒がいましたが、三四名が三日間程度ですが、貴重な職場体験をしてきました。必ず、来年進路を決めるときに役立つと思います。欠席した生徒は、後日実施する方向で調整しております。

**八月「学校説明会」** 司会進行を、一・二年生から二名ずつ担当し、科のPRを積極的に担当してくれました。おかげで、アンケートの結果、多くの中学生が希望しているようでした。

**九月「三年生課題研究中間発表会」** 現段階までの課題研究の成果について発表しました。今年度は、一四のテーマについて取り組んでいます。来年一月に、発表会があり一・二年生が参加する予定です。

**「進路状況」** 詳しい内容については、進路指導部からあるかと思いますが、科では七月から履歴書の書き方や面接指導を中心に、行ってきました。三年生は、真剣に取り組み、試験日が近づくと夜遅くまで残って何回も、練習をしていました。進路決定率は、今年も高いようです。

**一〇月「体験入学」** 午前中三十六名、午後九名の合計四十五名の参加があり、簡単な電子回路工作

(LEDライト製作)を行いました。最初、予想以上の参加人数が多く、製作用の材料が間に合うか心配しました(嬉しい話です)が、何とか無事に実施できました。今年から、一年生の有志生徒が担当してくれました。体育館からの誘導係、補助生徒、講師等合計一二名の生徒が、中学生のために手伝ってくれました。アンケートの結果、「先輩達が優しく教えてくれたから完成できた」、「優しく説明してくれたのでわかりやすかった」と、非常に好印象でした。

以上が、上半期の主な情報技術科の様子でした。その他にも、色々取り組んできました。

**「文化祭」** は、今年は一二月二日(一般公開)になりました。今年も、場所を情報技術棟一階に移動し、広くなった分、展示やデモ走行等、また今年度は、体



(写真提供 情報技術科 秋田先生より)

験入学で製作した、電子回路工作(LEDライト製作)を来場者に製作し、数名が持ち帰ってもらいました。もちろん、生徒主体で行いました。

今、情報技術科棟は、「ハロウィンモード全開」になっております。情報技術科棟の入り口から、階段を上り、二階の廊下まで一面が、別世界になっております。本科の若手教員と一年生の有志が、放課後残り、装飾してくれました。この模様には、

体験入学に来た中学生も驚いておりました。また、「先生と生徒の関係が大変和やかな科だと思いました」と、いうアンケートには印象的でした。ハロウィンが終わったら、次は何を企画しようかと、生徒達は相談しているようです。このように、「遊び心一〇〇%」の情報技術科棟には是非一度、見学に来て下さい。ちなみにお勧めは、夕暮れ時です。

**建設業界へ送り出す  
実習教育の取り組み**

建設科長 小島 聡

平成二三年度より、実務教育を意識した教育内容とするよう、各種建設業団体からの支援を頂きながら実務者と生徒が直接触れ合うことができる機会を積極的に設けると共に、将来の建設業界を担う人材として(注)「**基幹技能者**」の育成を目指した教育に取り組んでいます。

**校内での実習**

- ・測量実習(距離測量、トランシット測量、平板測量、水準測量)
- ・材料実験(セメント、骨材、



コンクリート、鉄筋、木材、土質)  
 ・建設機械運転実習(バックホウ、ロードローラー)  
 ・足場組立実習(技能検定「とび」三級実技課題)  
 ・鉄筋組立実習(技能検定「鉄筋組立」二級実技課題) など

**実務施工体験実習**

千葉県建設業協会の助成により毎年八月に職業訓練法人全国建設産業教育訓練協会の富士教育訓練センターにて、職業体験学習及び安全衛生講習会に参加しています。校内での基礎実習の応用として、より実践的な技術について実務者講師より直接指導を受けます。建設科では、この「実務施工体験実習」をもってインターンシップとしています。



企業実務者等による 実践的指導

- ・千葉県測量設計業協会による「測量講習会」(二年)
- ・千葉県鉄筋業協同組合による「鉄筋組立講習会」(三年)
- ・千葉県左官業組合連合会による「左官体験講習会」(一年)
- ・千葉県地質調査業協会による「地質調査体験講習会」(二年)
- ・(一社)日本機械土工協会による足場組立講習会(二年)



建設現場見学会

千葉県建設業協会の助成により建設工事現場の見学会を実施しています(二年)。

- ・今年度の見学会
- ・圏央道高滝湖PA工事現場(国土交通省関東地方整備局)
- ・千葉大学医学部亥鼻同窓会館新築工事現場(設計:鈴木弘樹, 施工:山内工業・株)

- ・千葉大学医学部付属病院新棟新築工事現場(設計:久米設計, 施工:鹿島建設)



生徒の反応

(現場見学会を終えての報告書より)  
 ・圏央道や千葉大医学部病院の工事現場を見せていただき、普段学校で学んでいる内容を、実際に目で見ることで、建設業について実感がより湧いてきました。工事現場内では現場監督が、たくさんの職人さんに指示を出して作業にあたっている方々全員が一つのチームとしてキビキビと働いている印象を受けました。私は大変な仕事であると思うのと同時に、将来「建設業をやりたい・就きたい」と思うようになりました。

建設業界への就職状況

平成二四年度卒業生の進路状況は以下の通りです。建設科三年生三二名。(一)に建設業界への就職者数を示します。就職者は、県内一八名(一四)、県外四名(二)の計二二名(一六)。

進学者は、大学一名、短大一名、専門学校五名の計七名です。  
 (現三年生の建設業界就職者の主な内定先企業)

阿部建設(株)、遠藤建設(株)、(株)安藤建設、(株)吉岡建設、住友林業ホームエンジニアリング(株)、(株)ダイニッセイ など



注:「基幹技能者」とは、熟練の技を持った技能者で、それに加えて施工管理、品質管理、原価管理、安全管理等のマネジメントができる技術能力も保有し、現場の責任施工を担える優れた技能者のことを言う。

平成二五年度  
 インターニシップ  
 実施報告

情報技術科 大木 正臣

インターニシップは、社会で求められる知識や技能について実感をもって学び、職業に関する体験によって自らの適性について考え、進路選択につなげていくことのできる貴重な活動であります。また、働く現場で大人と話をしたり、共同作業を体験したりすることで、社会で求められるルールやマナーを習得し、「基礎的・汎用的」を大きく伸ばすことも可能だと考えられます。インターニシップでの貴重な体験を、その後十分生かすためには、自ら体験を振り返り、そこに意味を見いだそうとする事後の学習活動や、自らキャリアに結び付けて考え、生かそうとする姿勢が大切です。

高等学校段階におけるインターニシップの目的は、  
 (一)働くこと・生きることの尊さを実感させ、勤労観・職業観を体験する

実際の職場では、生産性・正確さ・創造性・服務規律など様々な面において、学校よりもはるかに厳しい姿勢が求められます。  
 (二)進路選択への積極的を醸成する

高校におけるインターニシップは、生徒の将来的な展望にに応じた現実的な就業体験であることが望ましい。生徒は、必ずしもインターニシップで体験した職種に就くわけではないが、インターニシップの体験は、生徒の視野を大きく広げ、自らの適性を考える機会となるとともに、自らの進路を積極的に考え、自己の志望を固める契機となります。  
 (三)学習意欲を向上させる

インターニシップの体験を通して、その職業において必要な知識・技術・技能を認識することができ、目指すべき人間像が明確になることもあります。  
 (四)「基礎的・汎用的能力」を育成する

インターニシップによって、社会人・職業人としての勤勉さや責任感あるいはルールやマナーを学ぶことができます。

さて、今年のインターニシップの参加状況は、電気科七名、情報技術科三四名の参加でした。昨年よりも人数が増えました(平成二四年度 電気科一三名、情報技術科一名)。受入企業も今年は、二六社(平成二四年度一四社)と増えてきております。残念ながら受け入れられなかったにもかかわらず、生徒の参加が無かった、企業の方には大変失礼をいたしました。

参加した生徒の皆さん、感想

はどうでしたでしょうか？頭の中で思っていた以上に大変だったのではないのでしょうか。「仕事をやる大切さ」、「実際に働く大変さ」を体験できたのではないのでしょうか。この経験を是非、来年の進路決定の時に思い出してください。

## 全工協第十三回 高校生海外研修 (カナダ・アメリカ)

情報技術科三年

小川太一

私は今回七月二十三日〜八月一日まで、カナダ・アメリカ海外研修に行ってきた。参加人数は十九人で、北海道や熊本から来ている工業高校の生徒もいました。

カナダでは五月〜十月くらい

までが乾季となっているので、旅行中は一度も雨は降りませんでした。日中の気温は二十度前後と過ごし易いのですが、太陽との距離が近いので紫外線は日本の八倍と非常に強いのです。なので、日向だと暑く日陰だと寒いという環境でした。

カナダでの滞在はホームステイで

した。海外研修を一緒にしたお友達と二人で、八日間お世話になりました。ホストファミリーの方々は、とても優しく、毎日楽しく過ごすことができました。家族は五人で十歳の男の子と八歳の女の子がいました。二人はとても仲がよく、毎日皆でバスケットをして遊びました。また、休日には教会に行き皆で歌を歌ったりしました。

アメリカ(シアトル)では、セーフィコフィールドに行きました。球場はとても広かったです。ここでは日本人スタッフが案内してくれました。航空博物館ではライト兄弟の歴史や飛行機の歴史などを学びました。NASAの飛行機なども展示してあったので、とても楽しかった



です。また、ボーイング工場では、実際に飛行機の作業工程を見ることができました。なかなか、見る機会はないのでとても印象に残っています。

カナダのブリティッシュコロンビア工科大学(BCTC)では、主に機械工学について

話を聞きました。ヘリコプターや戦闘機がたくさん展示しており、機械工学への興味が深まりました。

今回の海外研修で自分自身の英語力を十分試すことが出来ました。しかし、現状としてはまだまだ未熟なのでこれからもしっかりと英語の勉強をしていきたいと思えます。

最後に、私が今回の海外研修に参加するにあたって協力してくださった先生方、またこのような素晴らしい機会を与えてくださった校長先生、本当にありがとうございました。

## 学校説明会を終えて

教務部 川野 克

去る八月二日(金)に、県立

東総文化会館大ホールに於いて平成二六年度入学生対象の学校説明会が、中学生二八五名、中学生保護者八一名、引率教員二名と多くの参加者のもとで開催されました。

教頭の挨拶に続き、教務部より教育課程や授業内容の説明、進路指導部より昨年度の進路状況の説明が行われました。

その後、工業科四科から「実習」や「課題研究」など工業科の特徴的な科目の取り組みについて、資格の取得状況や卒業生の進路状況などを交えて説明しました。ここ数年、学科の説明は各工業科の生徒が担当し、熱心さの中にユーモアも交えて説明するようになりました。参加した中学生や保護者の方々も、真剣に耳を傾けながら楽しんで映像をみる姿が見られました。

実施後のアンケートでは、本校の教育内容および専門学科の内容が「よくわかった」「わかった」という意見が大半を占め、「とてもわかりやすい説明で、どの学科も楽しそう」「先輩たちが詳しくわかりやすく教えてくれてよくわかった」「高校入学のいい参考になり、各学科についてよくわかった」などの中学生の感想のほか、「高校生が一生懸命説明しているので感心しました」「生徒たちが工夫し、特色を出していた」「普通高校

とは違って説明内容がとても新鮮で、生徒中心の説明もよかったです」などの保護者の感想も頂きました。

今回の学校説明会を通じて中学生や保護者の方には、本校の「ものづくり」に対する教育理念や各工業科の特色をアピールすることができ、また今後の進路決定に向けて大いに参考になったのではないかと感じました。

## バレーボール部 二年連続 関東大会出場

バレーボール部監督 谷下田 昇

平成二五年五月一日土曜日、柏井高等学校にて関東高等学校男女バレーボール大会県予選会が行われた。この日は三試合闘い、すべてに勝利し、県大会三位以上を決め、二年連続関東大会出場の切符を手に入れた。また創部以来初めての三位入賞も併せて獲ることができた。ここに至るまでの道のりと勝因について少し話をさせていただきます。

まずこのチームのスタートですが、昨年のレギュラーが二人しかいなく、ほとんど入れ替えてのスタートとなった。それでいて今年の三年生はおとなしい生徒が多く、ガンガン声を出して引っ張っていくタイプの選手



が少ないということになる。よくバレーボールは流れのスポーツ、声を出して盛り上げながら試合をするスポーツという固定観念を変えて指導せざる終えない環境が生まれた。ということ

盛り上がるどころだが、逆にとなしくなるのが東総ベースということになる。見事に二セットとも後半盛り上がりなくなり自分達のペースを保つことができた最高の試合であった。

一五四cmの鋼板製土俵の上で相手ロボットを土俵外へ押し出し勝敗を決する競技です。種目は選手がプロポ（ラジコンの送信機）で遠隔操作する「ラジコン型」と、プログラムで制御する「自立型」の二種類があり、部門では該当地区の高校生のみが参加できる「高校生部」と、参加資格制限の無い「全日本部」があります。

残り時間は少ないですが、やれる事は全て行い、限りなく万全の状態で大いに臨めるよう努力していきたいと思えます。

大会は十一月二十四（日）に埼玉県のものつくり大学で行われます。

より確実に点数を摂る方法を身につけ、つまらない失点をしないチームを創り上げていくしかないということになる。バレーボールの難しく、楽しいところはレベルの低い選手をいかに上げて、上のレベルと勝負できるまで持つて行けるかが鍵となる。

最後に一番の勝因だと思われることを書きます。それはメデイカルです。四月二八日に山梨へ練習試合に行きそこで三年のミドルが大腿筋の肉離れを起こしてしまつた。普通だったら整形外科・接骨院で見てもらえば五、六週間かかってしまい、県大会出場は当然無理である。そこで針治療を試みた。賭ではあったが先生が「間に合う」といったので本人も親も賭けてみた。そして順調に回復し、五月四日には二セット程全力ではないが試合に出ることができ、本番では何の不安もなく自分の持っているパフォーマンスを発揮する事ができた。この選手の復活がなければこの勝利はなかったかもしれない。ですから治療して頂いたドクターに感謝申し上げます。またバレー部の活動に対してご協力・ご支援してください。また保護者の皆様本当にありがとうございました。

今年度は二つの地区大会に参加し、全日本の部では東北大会で電子機械科二年の鈴木裕也君が四位、関東大会では電子機械科三年の保坂俊博君が六位となりましたが、どちらの地区大会も全国大会出場枠が一つ上の順位までということと悔しい結果となりました。

パソコン甲子園とは、高校生と高等専門学校生がプログラミング能力をはじめ、情報処理技術におけるアイデアや表現力等を競い合い、その経験を通して知識と技術を高めるIT分野の全国規模の大会である。福島県にある公立大学法人会津大学によって主催されている。

大会には予選と本選があり、今年度のプログラミング部門の予選には全国五六六チームが参加した。本戦には予選を勝ち抜いた三二チームが参加できる。本校からはチーム名「M.I.C.」(情報技術科三年 大木芳春・二年 加瀬敦哉)とチーム名「全角スペース」(情報技術科一年 生コンビ 玉利敦志・田邊賢吾)の二チームが参加した。

を貫き通してくれたと思う。ここに感謝の意を表します。現に県大会の三試合ともに常に自分たちのペースで試合を運んでくれた。特に最後の試合の千葉商大との試合はその典型であった。千葉商大は新人戦、県大会準優勝、のちの総体準優勝と力のあるチームに対して、堂々と闘い勝ち抜いたのだから立派である。試合はお互いの意地と意地の闘いとなるため、お互いの声がいり上がりながら進んでいくのが試合の常ですが、最初に書いたとおりうちはおとなしいので相手がミスした場合は盛り上がりがないので、試合が進むにつれて

今年度は二つの地区大会に参加し、全日本の部では東北大会で電子機械科二年の鈴木裕也君が四位、関東大会では電子機械科三年の保坂俊博君が六位となりましたが、どちらの地区大会も全国大会出場枠が一つ上の順位までということと悔しい結果となりました。

今年度は二つの地区大会に参加し、全日本の部では東北大会で電子機械科二年の鈴木裕也君が四位、関東大会では電子機械科三年の保坂俊博君が六位となりましたが、どちらの地区大会も全国大会出場枠が一つ上の順位までということと悔しい結果となりました。

今年度は二つの地区大会に参加し、全日本の部では東北大会で電子機械科二年の鈴木裕也君が四位、関東大会では電子機械科三年の保坂俊博君が六位となりましたが、どちらの地区大会も全国大会出場枠が一つ上の順位までということと悔しい結果となりました。

予選は九月十四日(土) 全国一斉に開始され、本校は情報技術科コンピュータ室でインターネット回線を通じて出場した。制限時間三時間、難易度の異なる全十問百点満点の問題の解答プログラムを作成し、得点形式で競った。このうち、M.I.C.が本戦への出場を決めた。特出すべきこととしては、関東地区の工業高校で、さらに千葉県から唯一東総工のみの選出であった。

# 全国大会に向けて

今年度はロボット動作不良や、プロポ操作・プログラム選択の誤りなど選手自身によるミスが多く、反省の多い試合結果となりました。

今年度はロボット動作不良や、プロポ操作・プログラム選択の誤りなど選手自身によるミスが多く、反省の多い試合結果となりました。

今年度はロボット動作不良や、プロポ操作・プログラム選択の誤りなど選手自身によるミスが多く、反省の多い試合結果となりました。

機械情報部 藤澤 宏有  
ロボット相撲とは、直径

これらを踏まえて全国大会ま

これらを踏まえて全国大会ま

これらを踏まえて全国大会ま

## 第十一回全国高等学校パソコンコンクール「パソコン甲子園2013」本選出場

機械情報部顧問 宮 進

出場する二名の生徒は、日頃から全国トップレベルの相撲ロボット制御プログラミングを担当している。プログラムの内容はPC甲子園で使用されるC言語を使用し、ロボットの動きを百分の一秒の精度で操る。そして一台のロボットに要するプログラムの行数は千行におよぶ。

まさに日ごろから研ぎ澄ましていくプログラミング技術の成果がここに実った形となった。本選は制限時間が四時間となり、十一月九日(土) 会津大学にて開催される。ちなみに昨年度のグランプリは開成高校であった。目標として、「ベストテ

ン入り」を目指す。

### 第四十九回 東総祭を終えて

#### 文化祭顧問 藤澤 宏有

十一月一日・二日の二日間にかけて、第四十九回東総祭が行われました。今年度は学校行事の関係で例年より一ヶ月開催時期がずれましたが、大きな混乱もなく無事に実施することができました。

一日目の開会式では、昨年度に引き続き音楽部のライブや職員劇、今年度から有志の生徒による仮装コンテストを行いました。

その後は校内公開へ移り、主

に飲食店では早い段階で品物が売り切れるなど盛り上がりを見せていました。

お化け屋敷のような大掛かりな企画を行うクラスでは校内公開に間に合わなかったところもありましたが、一般公開へ向けて最後の仕上げをみんな頑張っていたのが印象に残りました。

二日目の一般公開は、雲の多い空模様でしたが幸い雨が降ることもなく、五三九名の方々に御来校いただきました。本年度は開始直後の来校者が少なくとても不安でしたが、徐々に客足も増え、また来校者の滞在時間がとても長く、来校者の皆様に御満足いただける文化祭だったのではないかと思います。

本年度の東総祭では、工業科の科展示が実習を行う施設で行われ、普段の実習や専門科目の

学習内容など工業高校の特色をお見せできたのではないかと思います。

これからも東総祭が生徒と保護者様・地域の方々が触れ合う貴重な機会であると共に、本校の専門性の高さを披露する機会ともなるように、より一層の発展を目指していきます。

最後に、受付では多くの方々にアンケートへの御協力を頂き、ありがとうございました。アンケートの結果は以下の通りとなります。

#### ○クラス部門最優秀賞

情報技術科1年(お化け屋敷)

#### ○装飾賞

電気科1年A組(お化け屋敷)

○部活・委員会部門最優秀賞

#### 音楽部

#### ○ポスターデザイン賞

岡田 穂花 (電気科2年B組)

#### ○パンフレットデザイン賞

平野 千鶴 (情報技術科1年)

#### ○テーマ賞

岡田 穂花 (電気科2年B組)

#### ○仮装コンテスト最優秀賞

山崎 響 (建設科3年)

### 修学旅行を終えて

#### E2B 押田 康太

僕たち二年生は九月二十九日から三泊四日で沖縄へ修学旅行に行つて来ました。

出発前は「平和学習なんてど

うでもない」と興味関心がなく、とにかく遊んで楽しむことしか考えていませんでした。けれども、一日目の平和祈念公園での講話やひめゆり資料館で、戦争の悲惨さを知りました。特にガマ体験では、ガマに入るまですべりやすく、そこはこした通路、

そして天井も低くライトを消すと、目を閉じているかのような真つ暗闇を体験しました。当時はここを避難場所として使用し、生活していたことを考えると、生き抜いた人々の精神力の強さはとてもすごいものだと思います。

二日目は伊江島へ渡り、マリオン体験と民泊を体験しました。伊江島へ行く途中、「どんな家、どんな人なのか」と少し不安でしたが、島へ到着して、受入民家の方々に会うと、優しく接しやすかったのです。一気に不安がなくなりました。そして、昼食はソーキそばでとてもおいしくいただきました。午後からはマリオン体験や伊江ビーチで思う存分楽しめました。

一日目の夜ははしゃぎすぎてあまり眠れなかったのですが、この



日は疲れてぐっすり眠れ、朝スッキリ目覚めることができました。

三日目は、伊江島を離れ、一番楽しみにしていた「美ら海水族館」に行きました。水族館はとても大きく、飼育員の説明やエサやりを見て楽しみました。また、ジンベイザメのいる一番大きな水槽の所のカフェ

で食事を堪能しながらゆったりとした時を過ごしました。その後、「今帰仁城跡」を見学してホテルに行きました。

そして、最終日、「首里城公園」に行つた後、国際通りで班別行動をし、お土産を買いました。

沖繩を出発する時は名残惜しかったのですが、四日間の修学旅行を通して平和というもの大切さ、自然との共生の大切さを学びました。そのうえ、友達と楽しむことができたのは、私にとって一生忘れられない大切な思い出になりました。

### 第二十四回伊藤園 おいしいお茶新俳句大賞

佳作 M3 吉田 将之

「銀世界 走らぬ私と 走る川」